図解 4

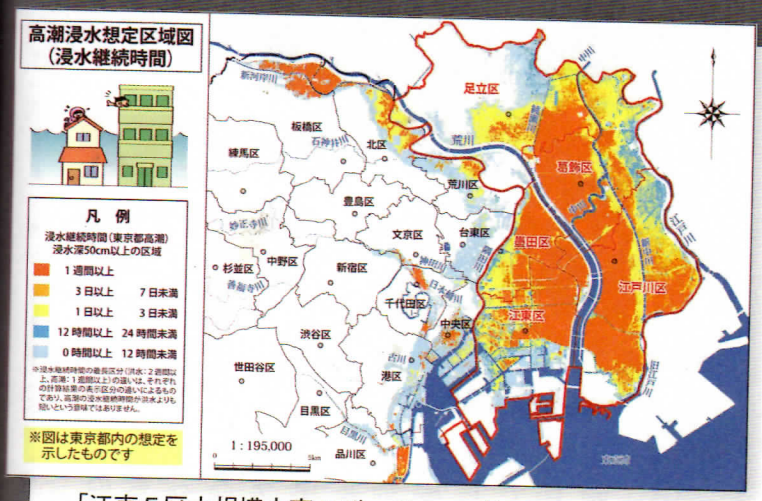
東京の下町は高潮で水没する

1週間以上も浸水が継続する

江東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）では、大規模水害で浸水する可能性がある区域に約250万人が暮らす。「江東5区大規模水害ハザードマップ」はこう警告する。

〈中心気圧930hPa以下の猛烈な台風が東京に接近した場合には、高潮が発生して、江東5区のほぼ全域が浸水するおそれがあります〉

それだけではない。葛飾区や江戸川区では浸水が1週間以上継続するのだ。



「江東5区大規模水害ハザードマップ」より

地下街に逃げた人々が溺れ死ぬ

猛烈な台風による被害は、江東5区だけにとどまらない。新宿や渋谷などの都心部で豪雨を避けようとする人々にも、危険が迫るのだ。

「都心部には地下鉄や地下のショッピングモールなど多くの施設がありますが、地下での被害が危惧されます。過去には、博多駅付近のビルの地下に豪雨が急に流入し、そこにいた人が水死しました。雨が降ると地下街に人が集まりますが、避難路が雨で塞がれるので危険です」（中澤氏）

新宿区では、冠水した住宅の地下室の様子を見に行った居住者が閉じ込められ、亡くなる事故も起きている。

雨水が流れ込むJR品川駅地下通路

台風の威力を弱め活用する研究が進んでいる

温暖化により狂暴化し続ける台風に、人類が打ち克つ術はないのか。

昨年秋に横浜国立大学が開設した「台風科学技術研究センター」では、台風の威力を人工的に制御しつつ、台風による発電を行う研究が進められている。それが「タイフーンショット計画」だ。

台風の目の中心に上空から氷を大量に撒いて、暖かい空気を冷やすことで威力を弱められるというのだ。

また、台風の風を利用し、無人船のスクリューを回転させて発電、台風襲来時の停電の電源を確保するという構想もある。

台風が人類に有用な働きをする日がやがて来るかもしれない。

写真／朝日新聞社、共同通信社、時事通信社、下野新聞、アフロ